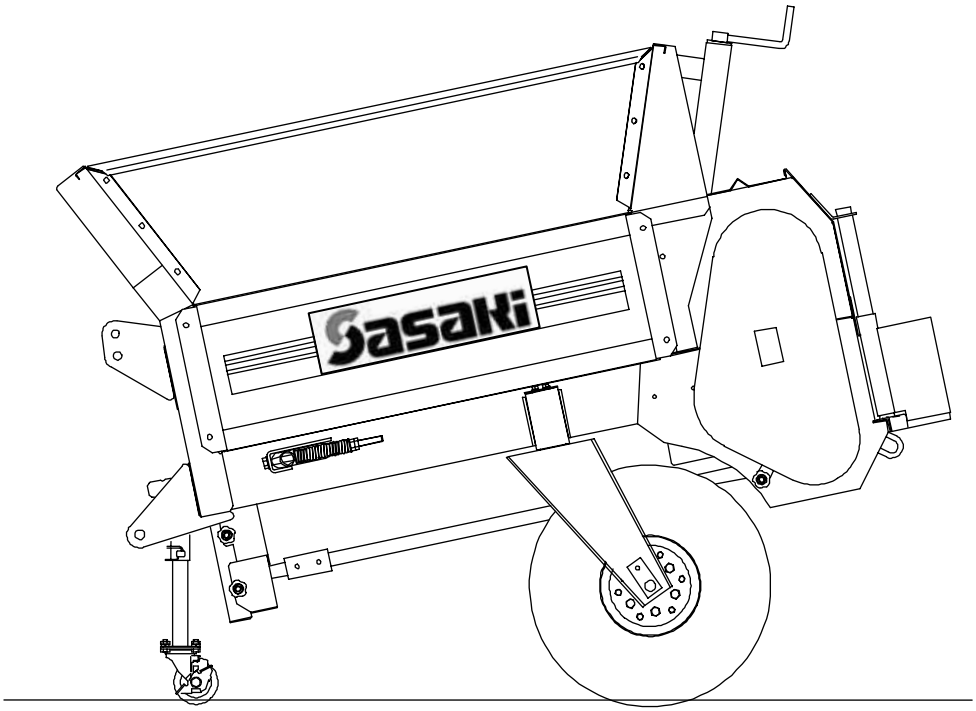
ササキ

# 取扱説明書

# マルチスプレッダ
# SMS-1020R




- ご使用前に必ずお読みください。誤った取扱いは事故につながります。
お読みになった後は大切に保管し、わからないことがあったとき取り出してお読みください。

Sasaki

# はじめに

・このたびは、ササキマルチスプレッダをお求めいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、正しい取扱い方と日常の点検、整備について記載してあります。
この取扱説明書およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになって、充分ご活用いただき、いつまでもご愛用ください。また、オプション装着の場合は各々の取扱説明書もごらんください。

・お読みになった後はいつでも取り出せるように保管し、わからないことがあったときにお読みください。

・マルチスプレッダを貸与または譲渡される場合には、取扱説明書も添付しておわたしください。

・取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご注文ください。

・下記のマークがついた項目は安全上、特に重要な項目ですので、必ず守ってください。

・危険 ── この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

・警告 ── この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

・注意 ── この項目を守らなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。

［取扱いの注意］ ── 操作上特に注意するべきことや、本機固有の事項ならびに、守らないと本機の性能、寿命に影響をおよぼす事項を示します。

・なお、品質、性能向上のため、部品の変更を行う場合があります。その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

# 目　　次


■ 安全に作業するために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
■ サービスについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
■ 本製品の使用目的について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
■ 仕様諸元 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
■ 付属部品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
■ 各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２
■ 安全銘板の張り付け位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
■ 使用前に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
１．適応トラクタ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
２．対応オートヒッチ規格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
３．各オートヒッチへの取り付け準備 ・・・・・・・・・・・・ １６
４．トラクタ前後バランス ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
５．スタンドの格納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
６．シャッターの操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
７．制御板の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
■ 使用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９
１．使用にあたって ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９
２．作業前の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９
３．トラクタへの取り付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２０
４．けん引走行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２
５．傾斜地での走行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２３
■ 散布作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４
１．積み込み作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４
２．散布量の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４
３．散布方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２５
４．ＰＴＯ回転数、クラッチ操作 ・・・・・・・・・・・・・・ ２６
■ 格納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２７
１．トラクタからの取り外し ・・・・・・・・・・・・・・・・ ２７
２．長期間格納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２７
■ 点検と整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２８
１．作業前の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２８
２．ボルト、ナットのゆるみ ・・・・・・・・・・・・・・・・ ２９
３．シャーボルトの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２９
４．フロアコンベアチェーンの張りと交換 ・・・・・・・・・・ ３０
５．ローラチェーンの張り ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３０
６．給油脂類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３１
７．点検整備基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３２
■ 故障と対策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３３

# ■安全に作業するために

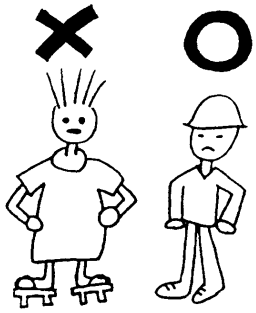
ここに記載されている注意事項を守らないと死亡を含む傷害事故や、機械の破損を生じるおそれがあります。

●全般の注意事項

## ・警告　こんな時は運転しない

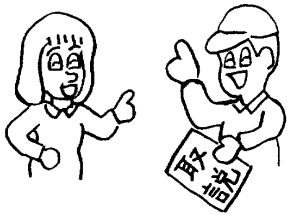
過労、病気、薬物の影響その他の理由により、作業に集中できないとき。
酒を飲んだとき。
妊娠しているとき。
１８才未満のひと。
　★守らないと
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　作業に適した服装をする



すべりやすいはきもの、だぶついた服装、腰てぬぐい等は禁止です。
ヘルメット、滑り止めのついた靴等、作業に適した服装をしてください。
　★守らないと
機械に巻き込まれたり、転倒してけがをするおそれがあります。

## ・警告　機械を貸す時は取扱いを説明する




取扱い方法をよく説明し、作業前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

　★守らないと
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

## ・警告　マルチスプレッダに人を乗せない

荷台等に人を乗せないでください。

　★守らないと
転落事故等思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

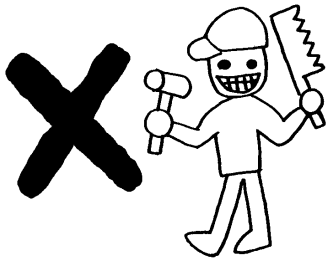
## ・警告　使用目的以外の作業に使用しない

土砂の散布等、本製品の使用目的以外の作業に使用しないでください。
石、木片等の異物を入れないでください。

★守らないと
事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。

## ・警告　機械の改造禁止

指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
分解や改造をしないでください。



★守らないと
事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。

## ・注意　日常点検､定期点検整備を行う

日常点検、定期点検を行ってください。

★守らないと
整備不良による事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。

## ・注意　公道走行禁止

道路運搬車両の認定を受けていません。
公道の走行はできません。

★守らないと
道路交通法違反です、事故を引き起こすおそれがあります。

●作業前後の注意事項

## ・警告　不適応のトラクタで作業しない

適応トラクタに連結して、作業してください。
２２．１ｋＷ（３０ＰＳ）以上のトラクタを使用してください。

★守らないと
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　トラクタの前後バランスを調整する

トラクタ前輪が軽いときはトラクタにフロントウエイトを取り付けてください。

★守らないと
バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　点検整備は平坦地でタイヤに歯止めをして行う

機械が動かない平坦で安全な場所で、タイヤに歯止めをしてから行ってください。

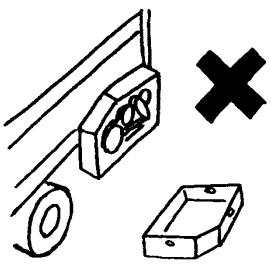
★守らないと
機械が動いて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　点検整備中はトラクタのエンジン停止

点検、整備、修理、あるいは清掃するときは必ず
トラクタのエンジンを停止してください。

★守らないと
巻き込まれ等の傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　取り外したカバー類は必ず取り付ける



点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

★守らないと
機械に巻き込まれるおそれがあります。

## ・警告　トラクタとの着脱は平坦地で行う

トラクタとの着脱は平坦地で、タイヤに歯止めをして行ってください。

★守らないと
機械が動いて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　オートヒッチに装着したらロックする

マルチスプレッダをオートヒッチに装着したら、
ロワーリンクピンから外れないように必ずロックしてください。

★守らないと
マルチスプレッダがオートヒッチから外れて、思わぬ事故を引き起こす
おそれがあります。

## ・警告　ロワーリンク最大持ち上げ時の高さを調整する

ロワーリンクを最大まで持ち上げたとき、マルチスプレッダのタイヤが地面から
充分に持ち上がるようにロワーリンクを調整してください。

★守らないと
進入路を下るときにトラクタの後輪が浮き上がり、暴走して傷害事故を引き起こす
おそれがあります。

## ・注意　作業前点検を行う

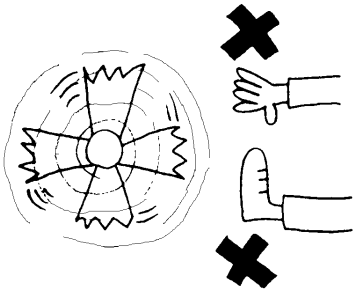
車体、タイヤ等点検項目に従って作業前に機械を点検してください。

★守らないと
事故を引き起こしたり、機械を損傷するおそれがあります。

●作業時の注意事項

## ・危険　回転中のビータには近づかない

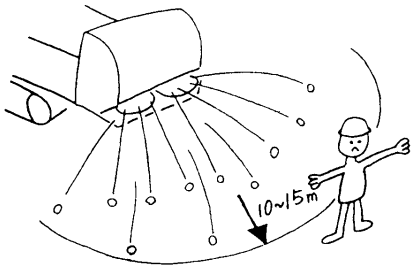
回転中のビータには絶対に近づかないでください。



★守らないと
巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

## ・危険　堆肥散布範囲は立入禁止

堆肥や、堆肥の中の石などが飛散するので、
後方および左右１０～１５ｍには人を
立入らせないでください。




★守らないと
人に当たって死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・危険　回転中のユニバーサルジョイントには近づかない

回転中のユニバーサルジョイントには絶対に近づかないでください。

★守らないと
巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　走行時はスタンドを上げる

走行するときはスタンドを上げ格納してください。

★守らないと
路面の突起等にぶつかり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　エンジンを始動するときはＰＴＯを中立にする

トラクタのエンジンを始動するときはＰＴＯを中立にしてください。

★守らないと
急にビータが回転し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　堆肥積載時はタイヤを接地させる

堆肥の運搬、散布時は必ずタイヤを接地させてください。

★守らないと
トラクタの前輪が浮き上がり事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　周囲の安全を確認してから発進する

機械の周囲に人がいないか確認してから発進してください。

★守らないと
事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　安全速度で走行する

マルチスプレッダを装着していると、トラクタが止まりにくくなります。
特に下り坂では安全な速度で走行してください。

★守らないと
衝突や転落事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　高速での急旋回禁止

旋回するときは、スピードを落としゆっくり行ってください。

★守らないと
転倒事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　急傾斜地では走行しない

タイヤがスリップして登れない急傾斜地では下りも走行しないでください。

★守らないと
暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　傾斜地では旋回や等高線に沿った走行はしない

旋回はなるべく平坦な場所で行ってください。
また、斜面を横切る等高線走行はしないでください。

★守らないと
転倒事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　傾斜地での変速、惰性走行をしない

傾斜地を走行するときは、あらかじめ適正な変速段に入れ、
下り坂ではエンジンブレーキを使用してください

★守らないと
暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ・警告　走行中はトラクタのポジションコントロールレバーを操作しない

走行中はトラクタのポジションコントロールレバーを操作しないでください。

★守らないと
機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## ・注意　過積載はしない

最大積載量内で作業してください。
最大積載量は５００ｋｇです。

★守らないと
機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## ・注意　ＰＴＯの高速回転禁止

ＰＴＯは５４０ｍｉｎ$^{-1}$以下で作業してください。

★守らないと
事故や機械の破損を引き起こします。

# ■サービスについて

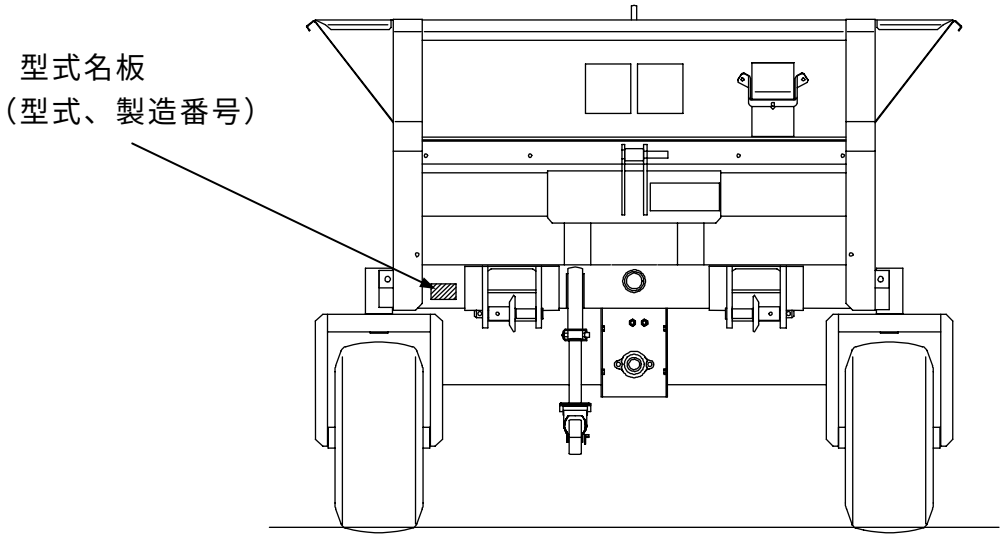
アフターサービスについて

機械の調子が悪いときは３３ページの「故障と対策」に従って、点検してください。
なお不具合がある場合はお買上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式
- 製造番号
- 購入年月日
- オプションの有無
- 使用状況
- 不具合が発生したときの状況を
  できるだけ詳しく

| 覚　え | |
|---|---|
| 型　式 | ＳＭＳ－１０２０Ｒ |
| 製造番号 | |
| 購入年月日 | |
| | |
| | |
| | |




＜本体前面＞

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。
ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

# ■本製品の使用目的について

本マルチスプレッダは、堆肥や土壌改良剤の運搬、散布を目的とした日農工標準オートヒッチ装着型のマルチスプレッダです。
堆肥や土壌改良剤の散布や運搬以外に使用しないでください。
また改造は行わないでください。

# ■仕様諸元

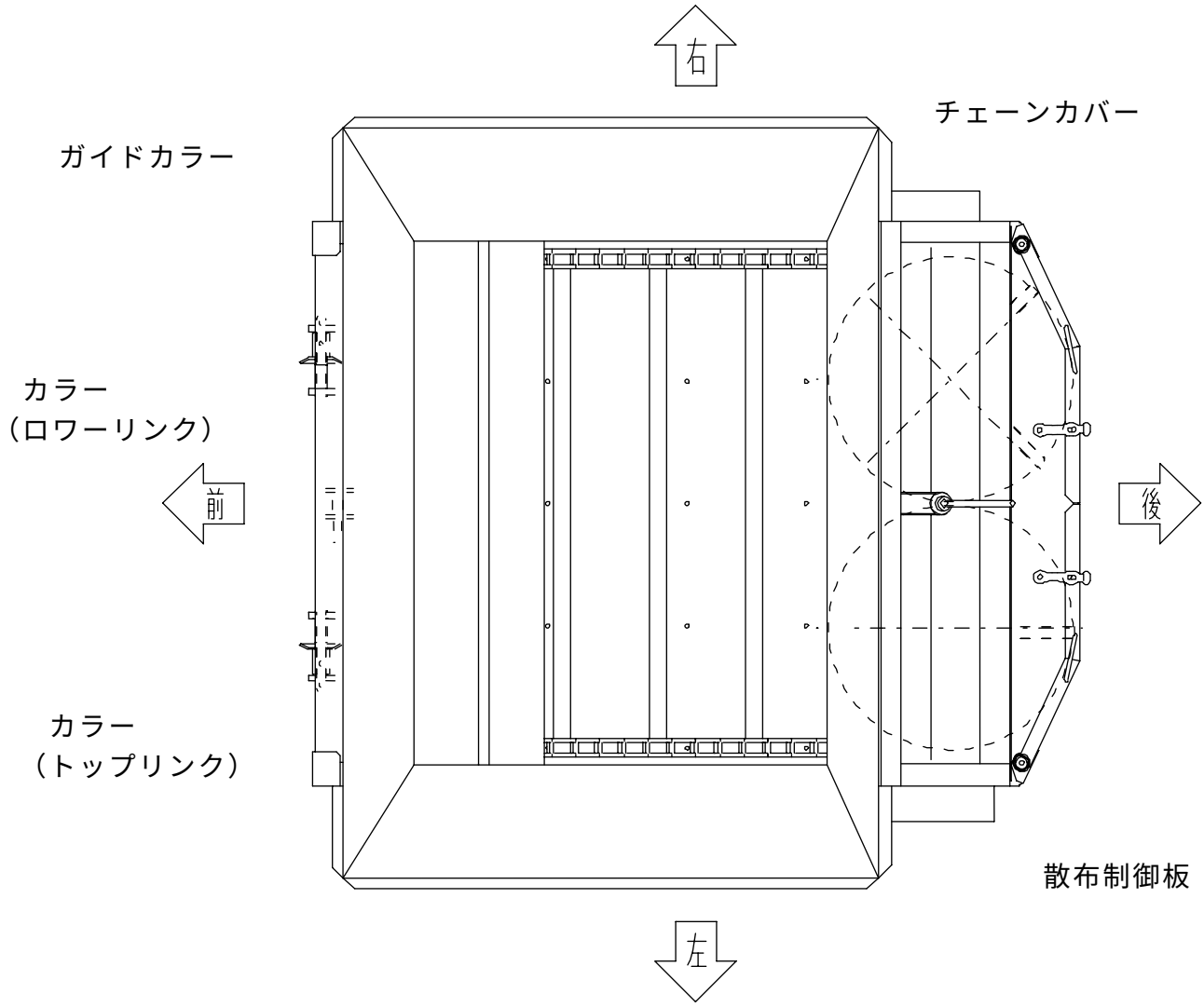
| 名称 | | | マルチスプレッダ |
|---|---|---|---|
| 型式 | | | ＳＭＳ－１０２０Ｒ |
| 最大積載容量 | | $m^3$ | １．０ |
| 最大積載質量 | | ｋｇ | ５００ |
| 機体質量 | | ｋｇ | ６００ |
| 機体寸法 | 全長 | mm | １８９５ |
| | 全幅 | mm | １８９５ |
| | 全高 | mm | １４９０ |
| 床面地上高 | | mm | ７６０ |
| 輪距 | | mm | １４７０ |
| 荷台寸法 | 長さ | mm | １０１５～１３１５ |
| | 幅 | mm | １２８０～１８４０ |
| | 深さ | mm | ７００ |
| タイヤサイズ | | | ２２×１０．００－１０－８ＰＲ |
| タイヤ空気圧 | | ＭＰａ | ０．３ |
| 散布幅 | | m | 約９ |
| フロアコンベア速度 | | m／分 | ５．２ |
| 装着方法 | | | 日農工標準オートヒッチ０・１形（Ｓカプラ） |
| | | | 日農工標準オートヒッチ１・２形（Ｌカプラ） |
| 駆動方法 | | | トラクタＰＴＯ |
| ＰＴＯ回転数 | | | ５４０ｍｉｎ$^{-1}$以下 |
| 適応トラクタ | | | ２２．１ｋＷ（３０ＰＳ）以上 |
| 標準作業速度 | | ｋｍ／ｈ | ３～５ |

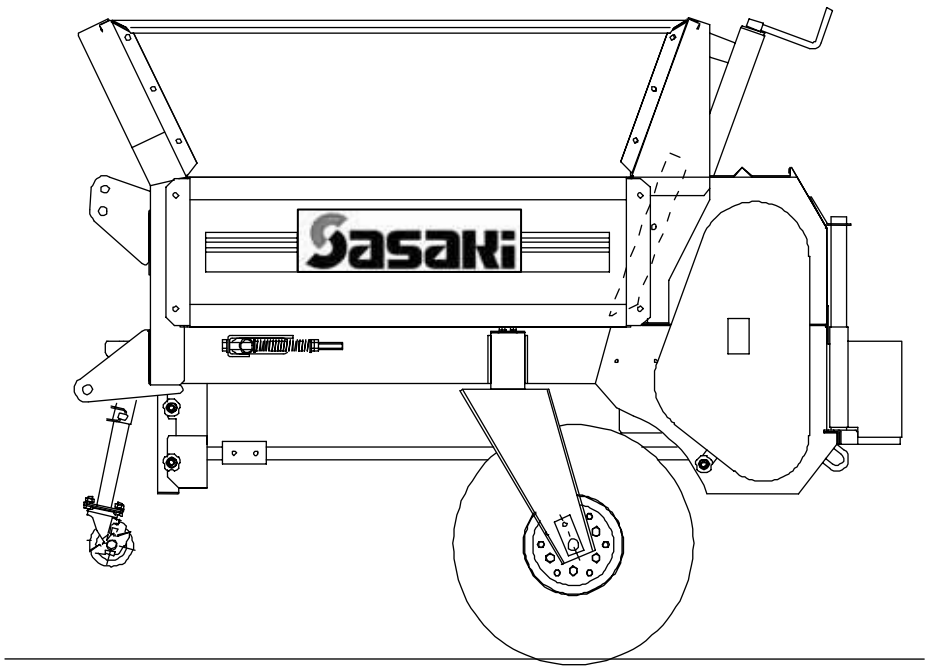
# ■付属部品

標準付属品として次のものが付属しています。

・取扱説明書 ――――― 1

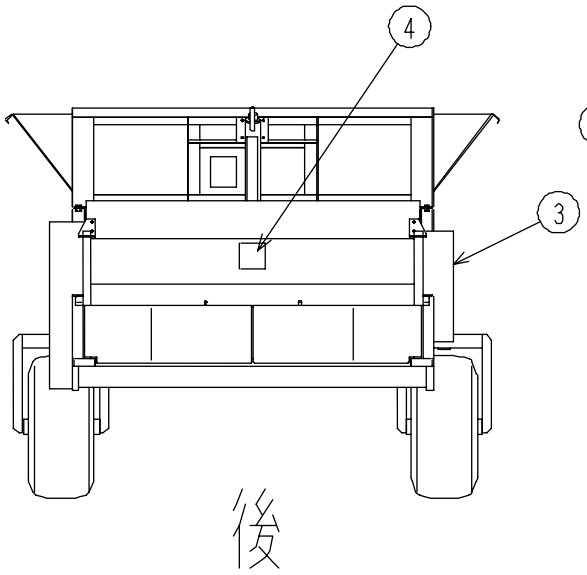
# ■各部の名称

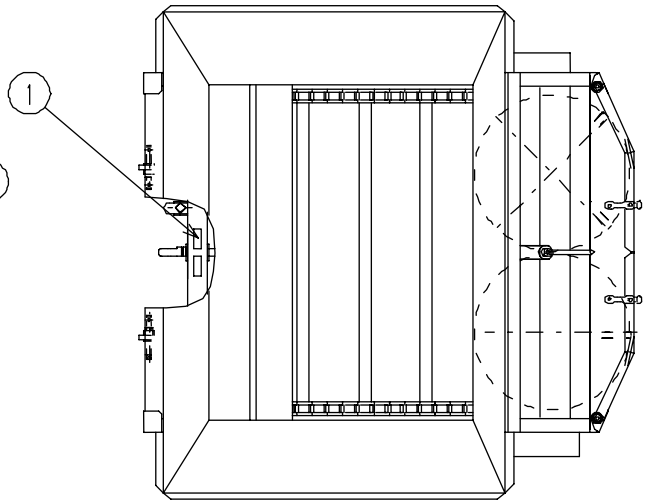


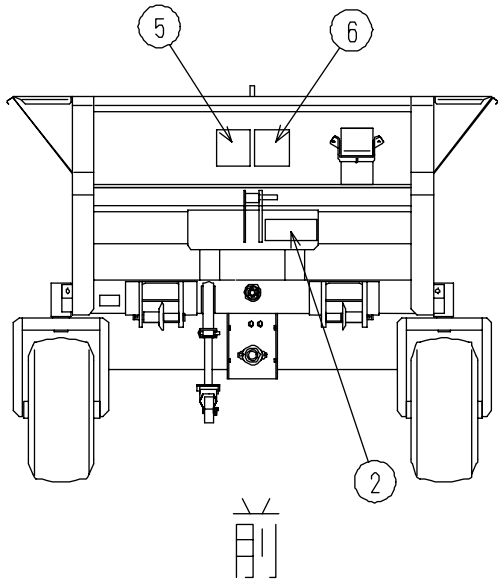



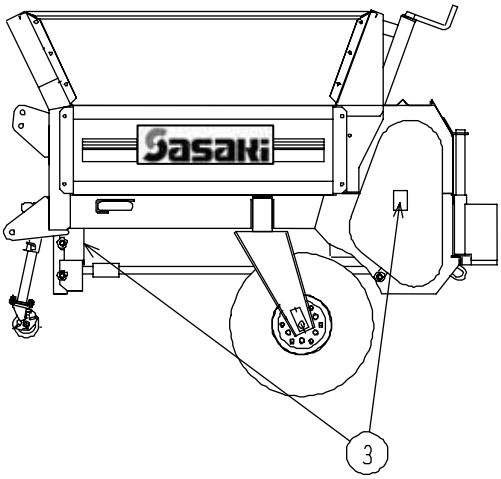
# ■安全銘板の張り付け位置

安全に作業していただくための安全銘板の張り付け位置を示します。
安全銘板はいつも汚れや破損のないようにし、もしも破損した場合は新しいものを購入し張りなおしてください。

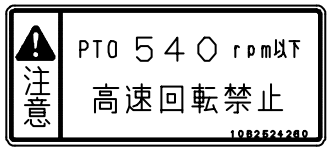


① 品番 10625-24260

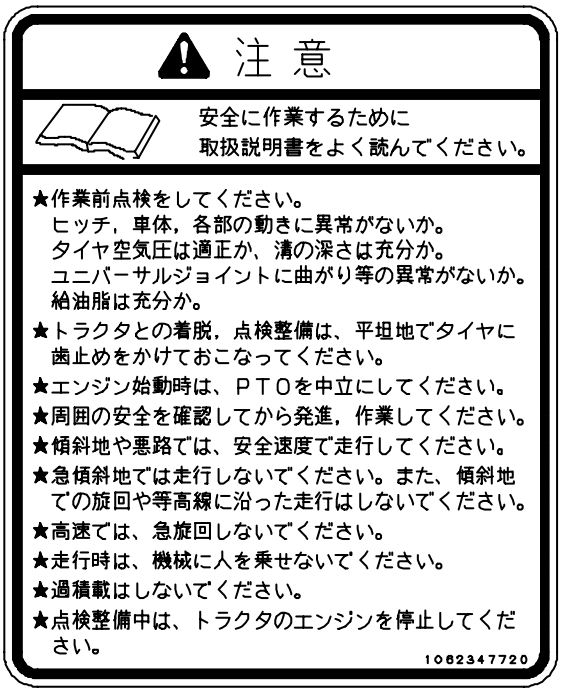



② 品番 10623-47710

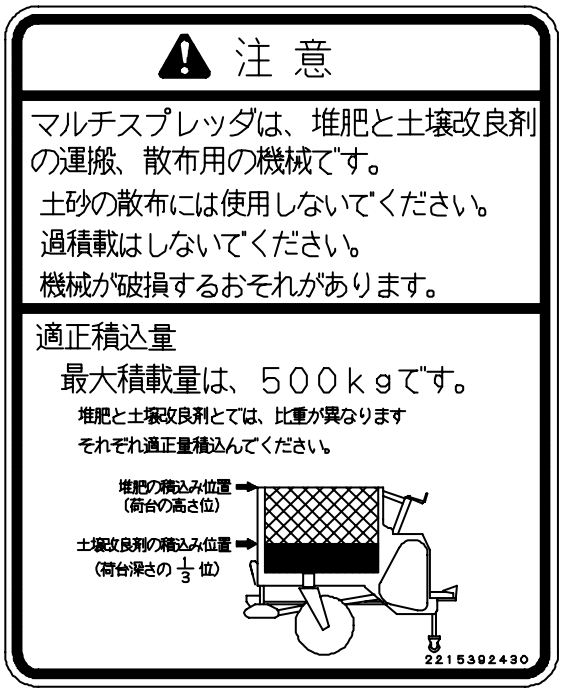
③ 品番 12873-47540

④ 品番 13585-62250

⑤ 品番 10623-47720




⑥ 品番 22153-92430



# ■使用前に

## 1．適応トラクタ

**・警告**　・不適応のトラクタで作業しないでください。

守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

適応トラクタは下表のトラクタを使用してください。

| 適応トラクタ | ２２．１ｋＷ（３０ＰＳ）以上 |
|---|---|

このマルチスプレッダは日農工標準オートヒッチ装着型です。日農工標準オートヒッチを装着したトラクタを使用してください。

## 2．対応オートヒッチ規格

このマルチスプレッダは、日農工標準オートヒッチ０・１形兼用（Ｓカプラ）、１・２形兼用（Ｌカプラ）に装着することができます。それぞれのオートヒッチに取り付けるための、ガイドカラーとトップリンクピンの組み合わせがあるので、１９ページをよく読み、お客様がお持ちのオートヒッチに取り付けられるようにしてください。

（納入時はオートヒッチ１・２形兼用（Ｌカプラ）に取り付けられる状態になっています）

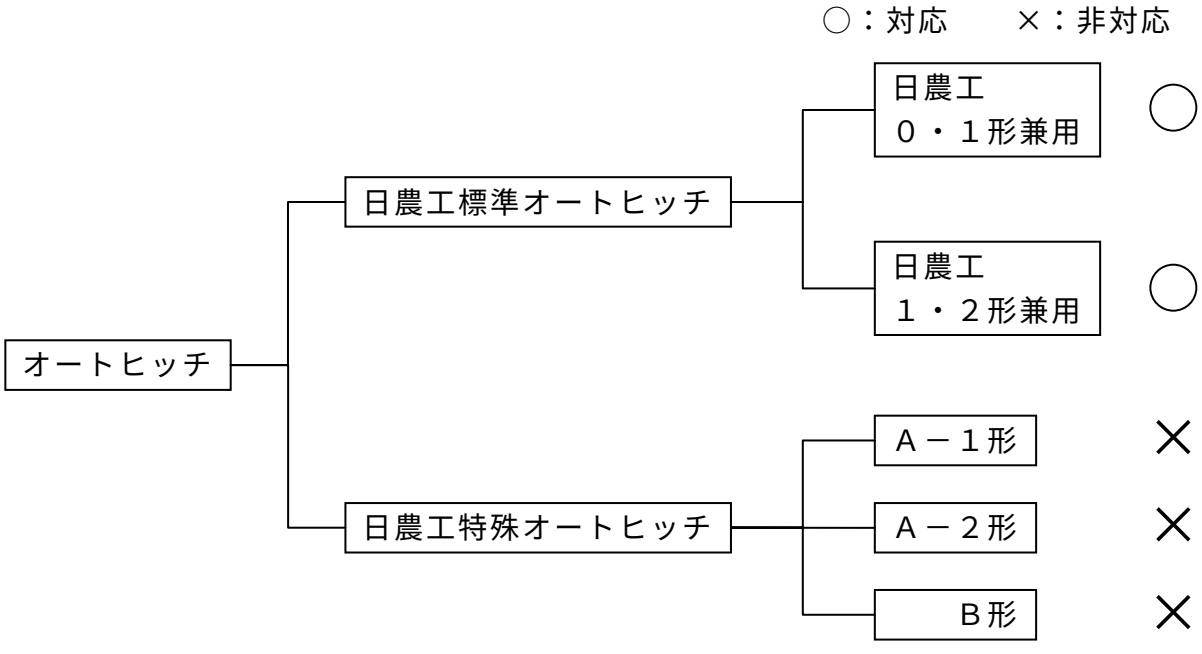
日農工標準オートヒッチは、ジョイントを同時に装着できるかできないかで以下の２種類があります。

４セット（４Ｓ、４Ｌ）・・・トップリンク、ロワーリンク左右、ジョイントの４点が同時に装着できる。

３セット（３Ｓ、３Ｌ）・・・トップリンク、ロワーリンク左右の３箇所が同時に装着できる。ジョイントは手作業で取り付ける。

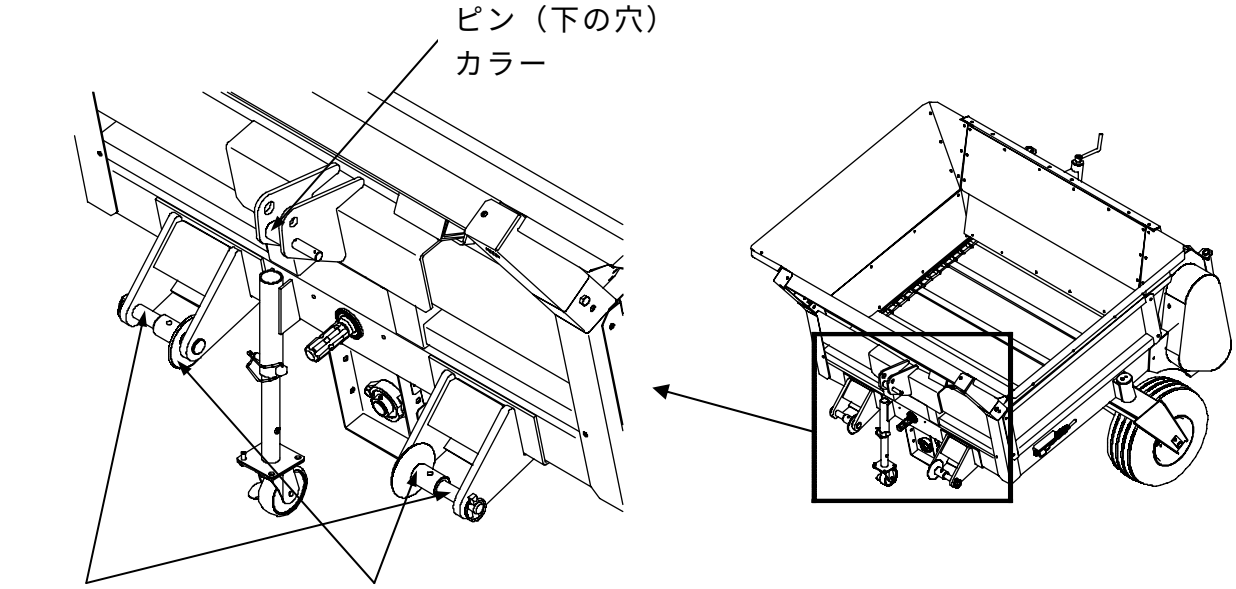
このマルチスプレッダは４セットに対応しています。３セットまたは３点リンク直装で使用するためには別売りのオプションが必要です。

オートヒッチ規格への対応については下の図を参照してください。



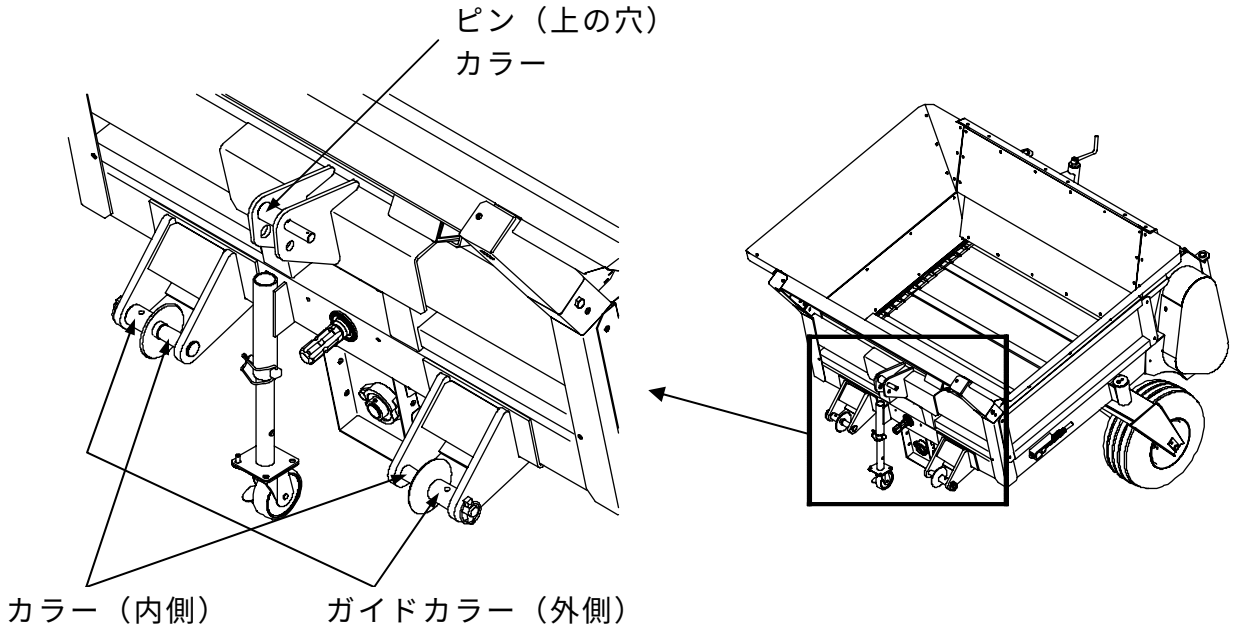
# ３．各オートヒッチへの取り付け準備

○日農工標準オートヒッチ０・１形兼用（Ｓカプラ）に取り付ける場合




○日農工標準オートヒッチ１・２形兼用（Ｌカプラ）で取り付ける場合

（納入時はこの状態になっています）



## ４．トラクタ前後バランス

**・警告**　・トラクタ前後バランスを調整してください。

守らないと、バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。

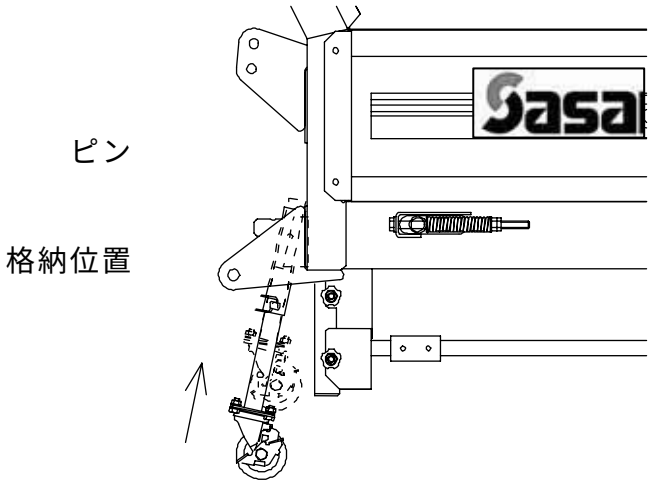
トラクタにマルチスプレッダを連結して 3 点リンクを持ち上げると、トラクタの前輪を持ち上げる力が働きます。トラクタ前輪荷重がトラクタの総重量２０%以下になると、トラクタのステアリング（かじ取り）がきかなくなり、極端な場合は後方へ転倒します。そのときは、トラクタへフロントウエイトを装着してください。

## ５．スタンドの格納

**・警告**　・走行時はスタンドを上げ格納してください。

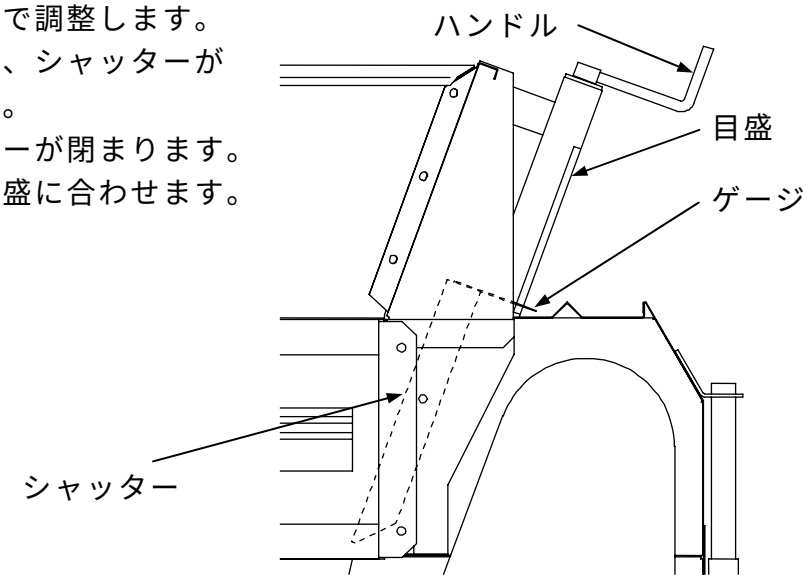
守らないと、突起物等に接触し事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタに連結したらスタンドのピンを抜き格納位置に持ち上げて、ピンを差し替えます。



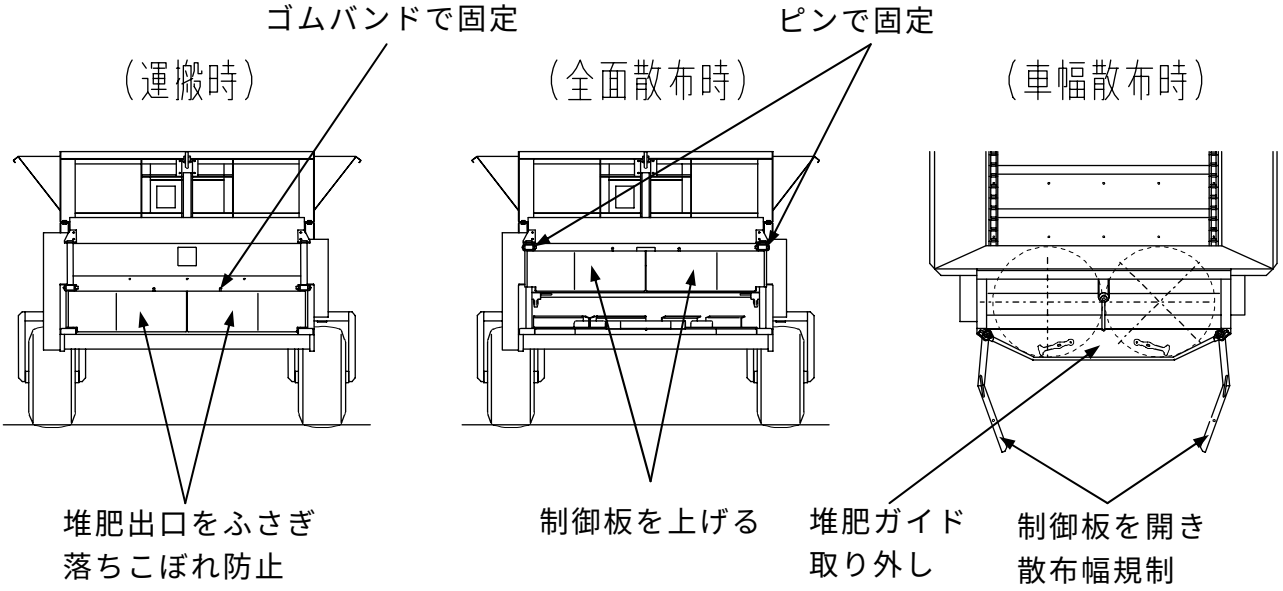

## ６．シャッターの操作

散布量は、シャッターの開度で調整します。
ハンドルを時計回りに回すと、シャッターが上がりたくさん散布できます。
反時計回りに回すとシャッターが閉まります。
散布量に合わせてゲージを目盛に合わせます。



# ７．制御板の調節

制御板の固定はピンで行います。（運搬時はゴムバンドも使用します）
運搬時は、制御板で堆肥の出口をふさぎ、落ちこぼれを防止します。
全面散布するときは、制御板を持ち上げた位置で固定します。
車幅散布するときは、制御板を車幅に開きます。
（固定できる位置は、閉じた位置および車幅に開いた位置の２ヶ所です）




［取扱いの注意］
車幅散布するときは、堆肥ガイドを取り外してください。

# ■使用方法

## １．使用にあたって

（１）　使用者

**・警告**　・こんなときは使用しない

過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
酒を飲んだとき。
妊娠しているとき。
１８才未満の人。
守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

マルチスプレッダを装着しての運転は、トラクタ単体での運転以上に注意（特に後方への注意）が必要です。体の調子が悪いときは注意がおろそかになったり、意志通りに体が動かなかったりして事故を引き起こすおそれがあります。また自動車の運転免許取得者以上の運転技術を持った人が使用してください。

（２）　服装

**・警告**　・作業に適した服装、防護具を着用してください。

すべりやすいはきもの、だぶついた服装、腰てぬぐい等は禁止です。
ヘルメット、滑り止めのついた靴等、作業に適した服装をしてください。
守らないと、機械に巻き込まれたり、転倒してけがをするおそれがあります。

## ２．作業前の点検

**・注意**　・作業前に機械を点検してください。

守らないと、事故を引き起こしたり、機械を損傷するおそれがあります。

作業の前に機械の周りを一巡して異常がないか点検してください。
点検項目、注意事項は２８ページの「点検と整備」の「１．作業前の点検」をご覧ください。

# ３．トラクタへの取り付け

**・警告**

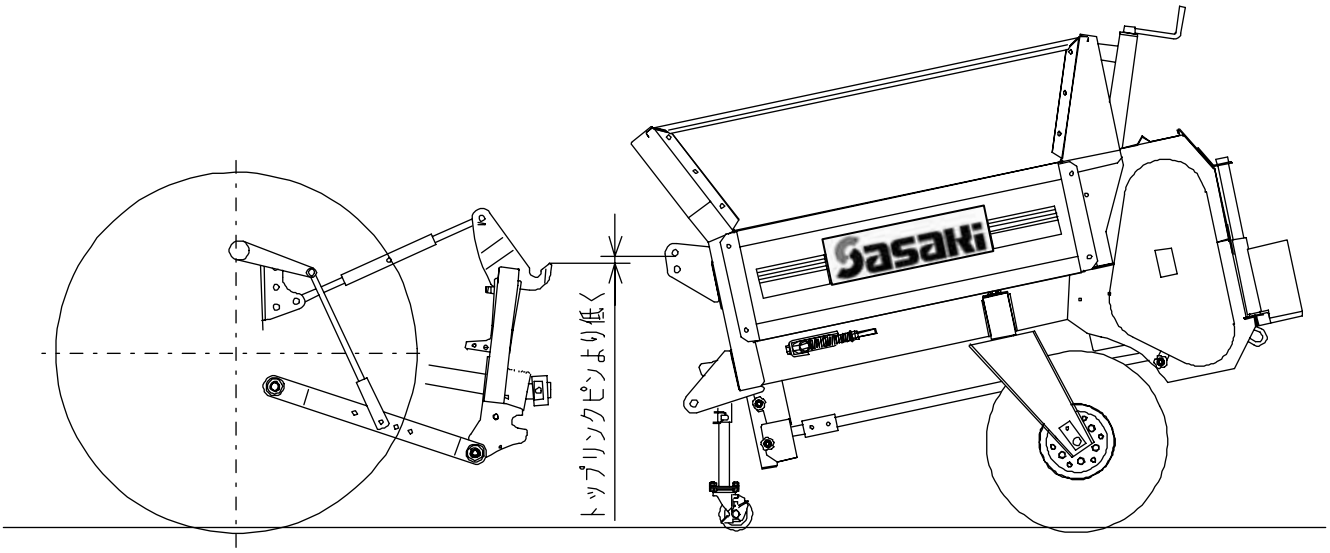
・トラクタとの連結は平坦地で歯止めをして行ってください。
守らないと、機械が不意に動き出し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

・走行時はスタンドを上げてください。
守らないと、路面の突起等にぶつかり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・エンジンを始動するときはＰＴＯを中立にしてください。
守らないと、急にビータが回転し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

・マルチスプレッダをオートヒッチに装着したら、ロワーフックは必ずロックしてください。
守らないと、オートヒッチからマルチスプレッダが外れて、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・ロワーリンクを最大まで持ち上げたとき、マルチスプレッダのタイヤが地面から充分に持ち上がるようにロワーリンクを調整してください。
守らないと、進入路を下るときにトラクタの後輪が浮き上がり、暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

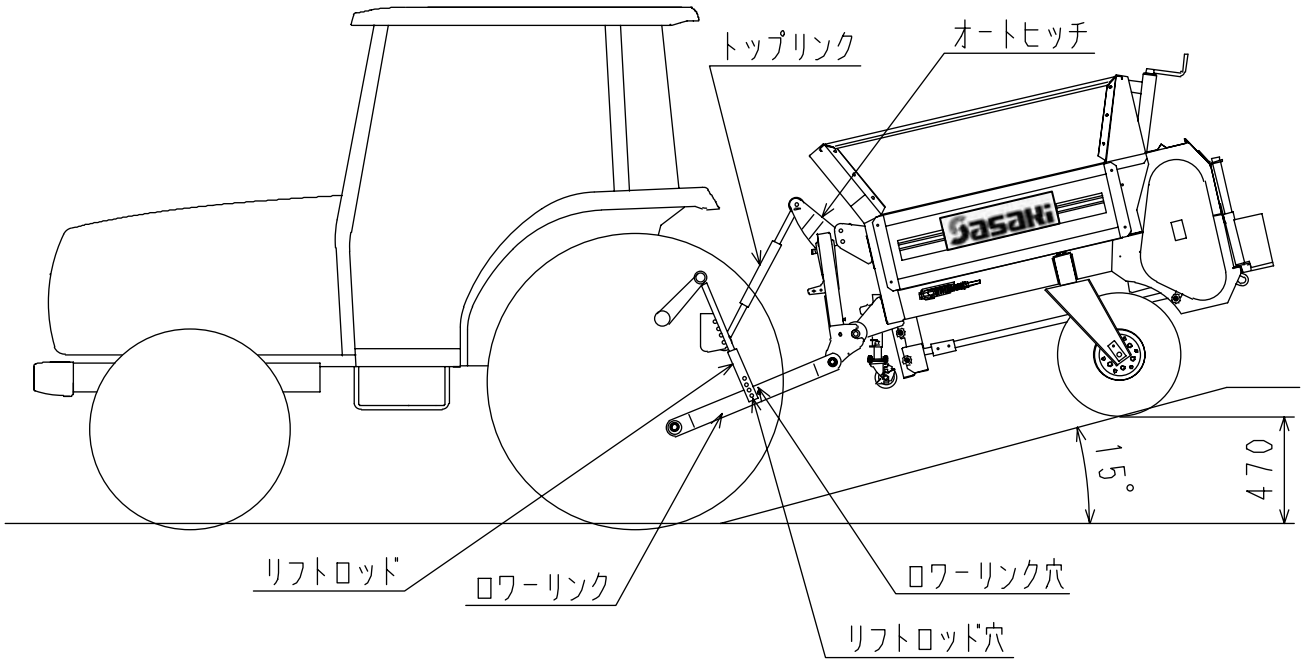


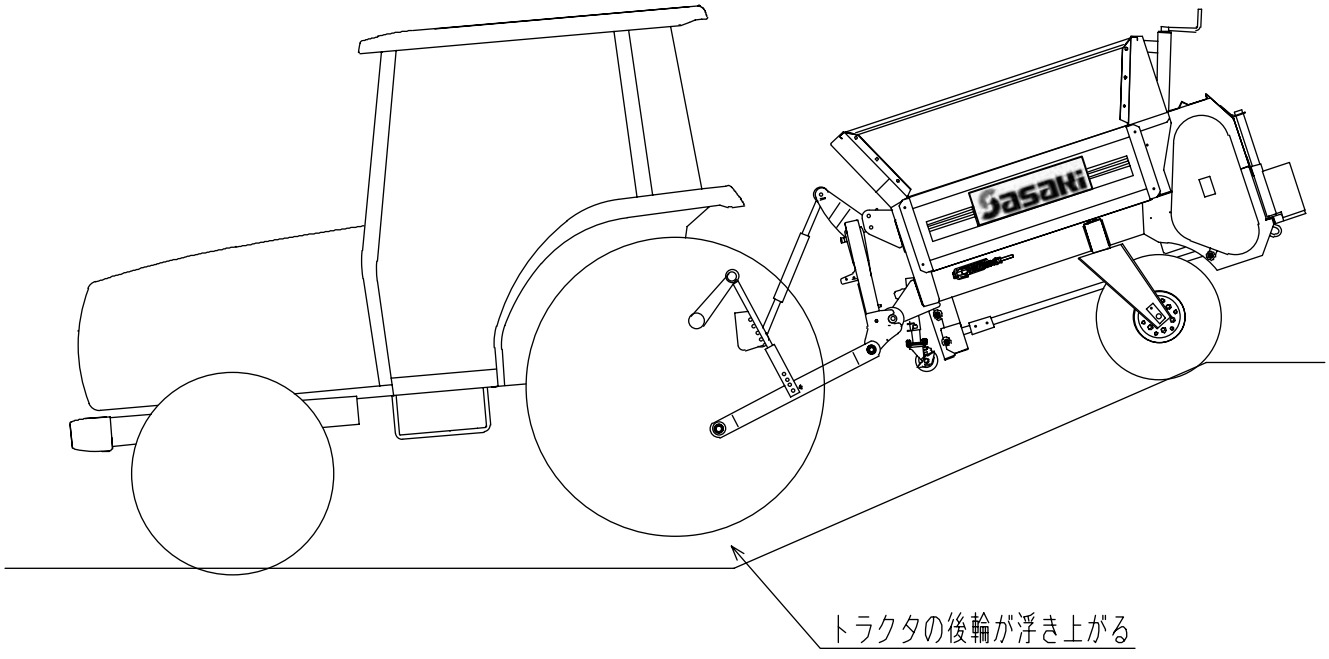

ロワーフック　　スタンド

（１）トラクタのロワーリンクを下げたとき、オートヒッチのトップフックがトップリンクピンより低い位置になるようにします。
（２）トラクタをバックさせ、マルチスプレッダのトップリンクピン下に、オートヒッチのトップフックを合わせます。
（３）マルチスプレッダをリフトアップすると、オートヒッチのロワーフックとジョイントが自動的に接続されます。
（４）ロワーフックをロック（オートロックタイプのヒッチもあります）し、スタンドを上げます。

（５）マルチスプレッダのタイヤを接地させ、必要に応じ荷台が水平になるように、トップリンクの長さを調整します。

（６）ロワーリンクを最大まで持ち上げて、地面からマルチスプレッダのタイヤまでの高さが充分にあるか確認します。傾斜角度が約１５度の進入路を下るときは、高さが４７０mm以上ないと、下るときにトラクタの後輪が浮き上がりブレーキがきかなくなります。そのため、高さが４７０mm以上になるようにトラクタ部のロワーリンクとリフトロッドとの取り付け穴位置を調整してください。傾斜角度が１５度以上の進入路を下る場合は、高さを４７０mmより更に高くしてください。
このとき、ロワーリンク取り付け穴を前側、リフトロッド取り付け穴を上側で使うとロワーリンクを最大まで上げることができます。



# ４．けん引走行

**・警告**

・エンジンを始動するときはＰＴＯを中立にしてください。
守らないと、急にビータが回転し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・周囲の安全を確認してからゆっくり発進してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・安全速度で走行してください。
守らないと、衝突や転落事故を引き起こすおそれがあります。
・高速での急旋回はしないでください。
守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。
・旋回時は機械の動きに注意してください。
守らないと、脱輪転倒や接触事故を引き起こすおそれがあります。
・走行中はマルチスプレッダに人を乗せないでください。
守らないと、転落事故等思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
・走行中はトラクタのポジションコントロールレバーを操作しないでください。
守らないと、機械の破損により事故を引き起こすおそれがあります。

**・注意**

・この機械は道路運送車両の認定を受けておりません。公道でのけん引走行はしないでください。
守らないと、道路交通法違反です、事故を引き起こすおそれがあります。

けん引走行はトラクタ単体で走行する場合と異なります。
下記特性に注意して安全に走行してください。

（１）トラクタとマルチスプレッダとの間に人がいたり、マルチスプレッダの影に人がいることもあります。知らずに発進すると重大な事故になりますので必ず安全を確認してから発進してください。

（２）この機械にはブレーキがありません。マルチスプレッダをけん引してブレーキを掛けたときは、トラクタ単体でブレーキを掛けたときより制動距離が長くなります。
下り坂、旋回時は特に注意して、安全速度で走行してください。

（３）旋回時マルチスプレッダにはトラクタ以上の遠心力が加わります。
高速で急旋回すると、トラクタとマルチスプレッダが転倒することがあります。
旋回時はスピードを落としてください。
この特性を考慮して旋回してください。

# ５．傾斜地での走行

**・警告**

・急傾斜地では走行しないでください。
守らないと、暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・傾斜地では旋回や等高線に沿った走行はしないでください。
守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。
・傾斜地での変速、惰性走行はしないでください。
守らないと、暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・ロワーリンクを最大まで持ち上げたとき、マルチスプレッダのタイヤが地面から充分に持ち上がるようにロワーリンクを調整してください。
守らないと、傾斜地を下るときにトラクタの後輪が浮き上がり、暴走して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

傾斜地ではマルチスプレッダに押されて暴走したり、転倒する危険があります。下記の点を守って走行してください。

（１）トラクタのタイヤがスリップして登れない急傾斜地を降りると、ブレーキを掛けてもタイヤがスリップしてブレーキがききません。このような場所ではけん引走行しないでください。傾斜地では坂を下る前に登れるかどうか確認してください。
登坂能力は路面状態により異なります。ふだん登れても路面が湿っていると、登れないこともありますので、その時々で確認してください。

（２）傾斜地で旋回すると必ず等高線に沿った向きになりそのときが最も転倒しやすくなります。なるべく平坦な場所を捜して旋回してください。

（３）傾斜地を走行するときはあらかじめ適正な変速段に入れ、下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。

（４）ロワーリンクを最大まで持ち上げても、マルチスプレッダのタイヤが地面から充分に持ち上がらない状態で傾斜地を下ると、トラクタの後輪が浮き上がりブレーキがききません。傾斜地を下る前にロワーリンクを最大まで持ち上げ、マルチスプレッダのタイヤが地面から充分に持ち上がるかどうか確認してください。

# ■散布作業

**・危険**　・回転中のビータには絶対に近づかないでください。

堆肥や、堆肥の中の石などが飛散するので、後方および左右１０～１５ｍの範囲には人を立ち入らせないでください。
守らないと、死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## １．積み込み作業

**・注意**　・過積載はしないでください。

守らないと、機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

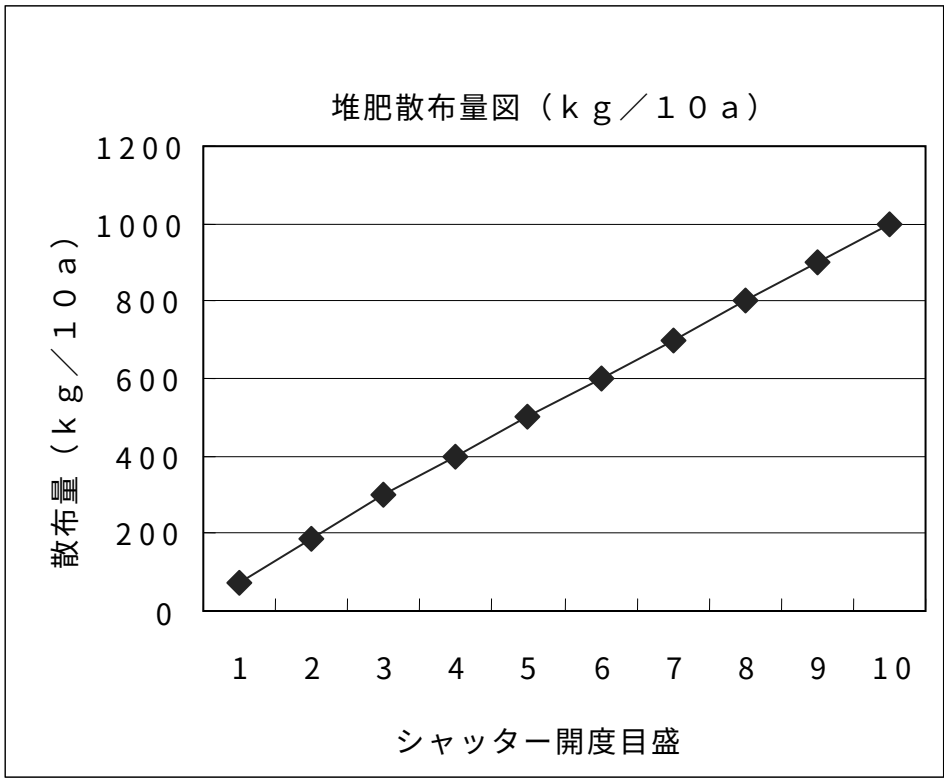
能率よく散布するためには、堆肥を適正量積む必要があります。積み過ぎるとビータ部に堆肥が詰まったり、過負荷によりシャーボルトが切断したり、かえって非能率になります。
堆肥と土壌改良剤とでは比重が異なりますのでそれぞれ適正量積み込んでください。

| |
|---|
| 堆肥の適性積み込み量は荷台上部の高さ位です。<br>土壌改良材の適性積み込み量は荷台深さの１／３位です。 |

また、積み込み量は堆肥の性状によって変えてください。たとえば、完熟した堆肥は荷台上部の高さまで積んでも散布できますが、生わらの多い不完熟堆肥は負荷が大きいので少なくしてください。

## ２．散布量の調節

散布量は、シャッターの開度、車速、ＰＴＯ回転数により調節します。
シャッターの開度は、１～１０までの目盛がついていますが無段階に調節でき、数字が大きくなると散布量が多くなります。
散布量の調節は、次のグラフを参考にして、実際の散布量を見て行ってください。



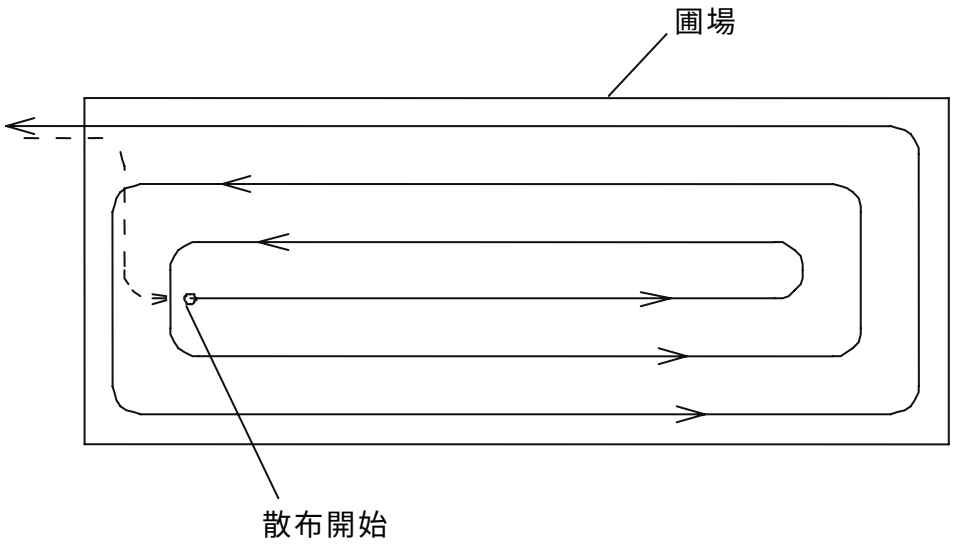

［取扱いの注意］
上図は、完熟堆肥（比重０．５程度）をＰＴＯ回転数５４０ｍｉｎ$^{-1}$、車速５ｋｍ／ｈで全面散布したときの１０ａ当たりの散布量です。
ご使用の堆肥によっては散布量が異なる場合があります。この散布量図はあくまでも参考とし、実際の散布状況を見ながらシャッターの開度を決めてください。

## ３．散布方法

（１）堆肥を積み込みます。
（２）散布開始位置へ移動します。
（３）散布量図を参考にしてシャッターの開度を決めます。
（４）トラクタのＰＴＯを１速に入れ、車速（変速段）を希望の位置にします。
（５）エンジン低速で発進し、徐々に希望位置まで回転を上げます。

散布方法としては、圃場の中央より外側に向かって旋回しながら散布すると、散布した堆肥を踏みつけることなく作業でき、道路等への堆肥の落ちこぼれが少なくなります。

散布例




［取扱いの注意］
散布作業時はできるだけ一定の速度で走行してください。速度の変化は散布むらの原因になります。
旋回しながら散布するときは、周囲に人がいないか、外の圃場や道路に飛散しないか注意してください。
堆肥散布が終了したら、道路等に堆肥を落とさないようにビータ付近、タイヤ等に付着した堆肥を取り除いてください。

## ４．ＰＴＯ回転数、クラッチ操作

**・注意**　・ＰＴＯ回転数は５４０ｍｉｎ$^{-1}$以下で高速回転禁止。
守らないと、機械の損傷により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

堆肥散布はＰＴＯ回転数５４０ｍｉｎ$^{-1}$以下で行ってください。トラクタによってはＰＴＯが多段に変速できますが、１速を使用してください。
また、クラッチの接続はエンジンを低速にしてからゆっくり行ってください。
急激にクラッチを接続すると、通常作業の３倍以上の衝撃荷重が加わり、シャーボルトの切断、チェーンの伸び等の不具合が生じます。
特に、独立ＰＴＯの場合は必ずエンジンを低速にしてからＰＴＯを接続してください

# ■格納

・警告　・トラクタとの連結は平坦地で歯止めをして行ってください。

守らないと、機械が不意に動き出し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## １．トラクタからの取り外し

（１）マルチスプレッダのスタンドを立てます。
（２）マルチスプレッダをリフトアップして、ロワーフックのロックを解除します。
（３）オートヒッチを下げると、ロワーフックとジョイントが外れます。
（４）更にオートヒッチを下げて、トップフックをトップリンクピンより低い位置にしてから、トラクタをゆっくり前進させるとマルチスプレッダは外れます。

［取扱いの注意］
タイヤを後ろ向きにしてから取り外してください。
タイヤを後ろ向きにしないでトラクタから取り外そうとすると、マルチスプレッダが後方へ転倒します。
作業終了後は清掃し、各部に給油して格納してください。

## ２．長期間格納

長期間格納する場合は次の要領で行います。
（１）各部を水洗いしてください。
（２）ボルト、ナット類のゆるみを点検し、必要なものは増し締めしてください。
（３）各部に給油してください。
（４）平坦な場所で保管してください。
（５）なるべく屋内に格納してください。
やむをえず野外に置く場合はシート等をかけ、堆肥、泥等が付着しないようにしてください。
タイヤが水たまりに入らないように寒冷地では特に注意してください。

# ■点検と整備

**・注意**

・点検、整備、修理をするときは、平坦地でタイヤに歯止めをしてください。
守らないと、不意に動いて傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・点検、整備、修理あるいは清掃するときは必ずトラクタのエンジンを停止してください。
守らないと、巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。
・点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてください。
守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検、整備は、作業の安全、機械の寿命、作業能率に大きく影響しますので、定期的に行ってください。
作業前には機械の周りを一巡して、異常がないか確認してください。

［取扱いの注意］
給油脂時は、給油口をウエス等できれいにしてから行ってください。
交換部品は純正品を使用してください。

## １．作業前の点検

（１）車体の損傷
車体に損傷や異常がないか、特に溶接部に亀裂がないか点検します。

（２）タイヤ
・空気圧は適正か。

| 適正空気圧 | ０．３ＭＰａ（３ｋｇ／ｃｍ$^2$） |
|---|---|

・損傷や金属片等の異物がないか。
・溝の深さは充分か。（１mm以下交換のこと）
・異状な偏摩耗はないか。

（３）空運転
空荷でＰＴＯを回転させビータまたはフロアコンベアの動きに異常がないか点検してください。
ビータの下に堆肥が固着している場合や、石等が挟まっている場合は取り除いてください。

（４）シャッターの作動
シャッターの動きが正常か点検します。

## ２．ボルト、ナットのゆるみ

最初の５～10 時間後に全てのボルト、ナットのゆるみを点検します。特にホイールボルトは時々点検します。

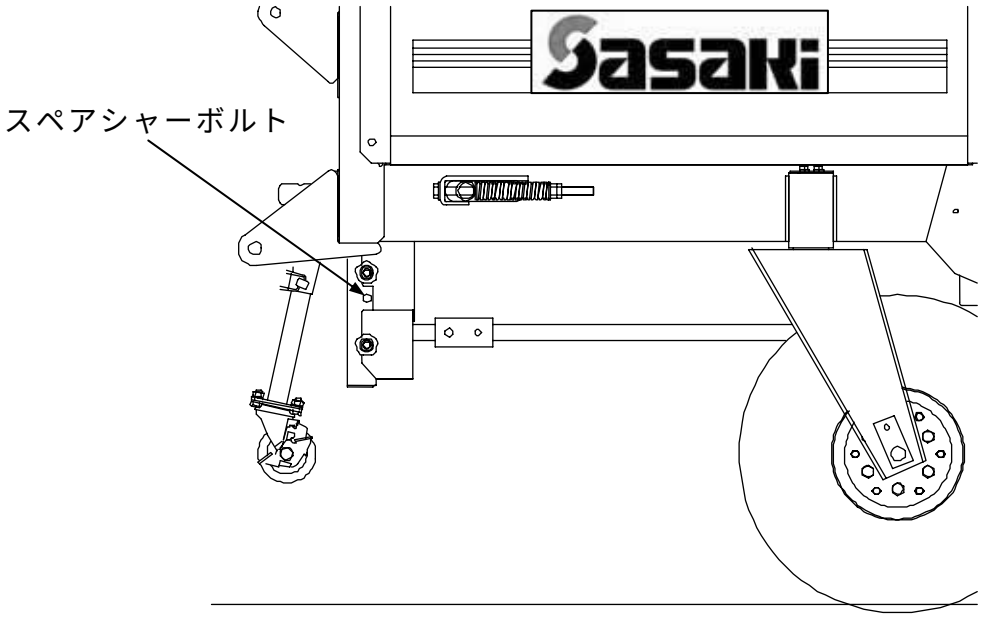
| 締め付けトルク：４５Ｎ－ｍ（４．６ｋｇｆ－ｍ） |
|---|

## ３．シャーボルトの交換

過負荷による機械の破損を防ぐため、入力軸部にシャーボルトが入っています。
過負荷になるとシャーボルトが切断され、動力の伝達を停止します。
作業中にシャーボルトが切断した場合は、すみやかにＰＴＯ、エンジンを停止して、次の要領で交換してください。
シャーボルトの交換
シャーボルトは主にビータ駆動系統が過負荷になったときに切断します。

（１）シャーボルトが切断した原因を取り除きます。
　　主な原因　１．ビータへの異物のかみ込み。　　２．堆肥の積み過ぎ。
　　３．急激なクラッチ操作。　　４．ＰＴＯ回転が速すぎる。

（２）新しいシャーボルトをロックナットにより遊びがない程度まで締め付けます。

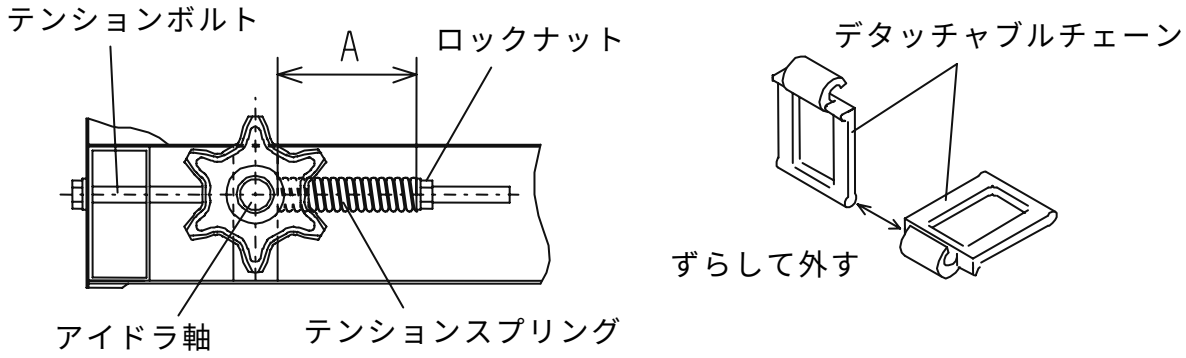



［取扱いの注意］
シャーボルトは純正品を使用してください。
代用品を使用すると、機械を損傷するおそれがあります。
シャーボルトは長期間使用すると、特に異常がなくても切断することがあります。
これは疲労による切断ですので、新しいものと交換してください。

# ４．フロアコンベアチェーンの張りと交換

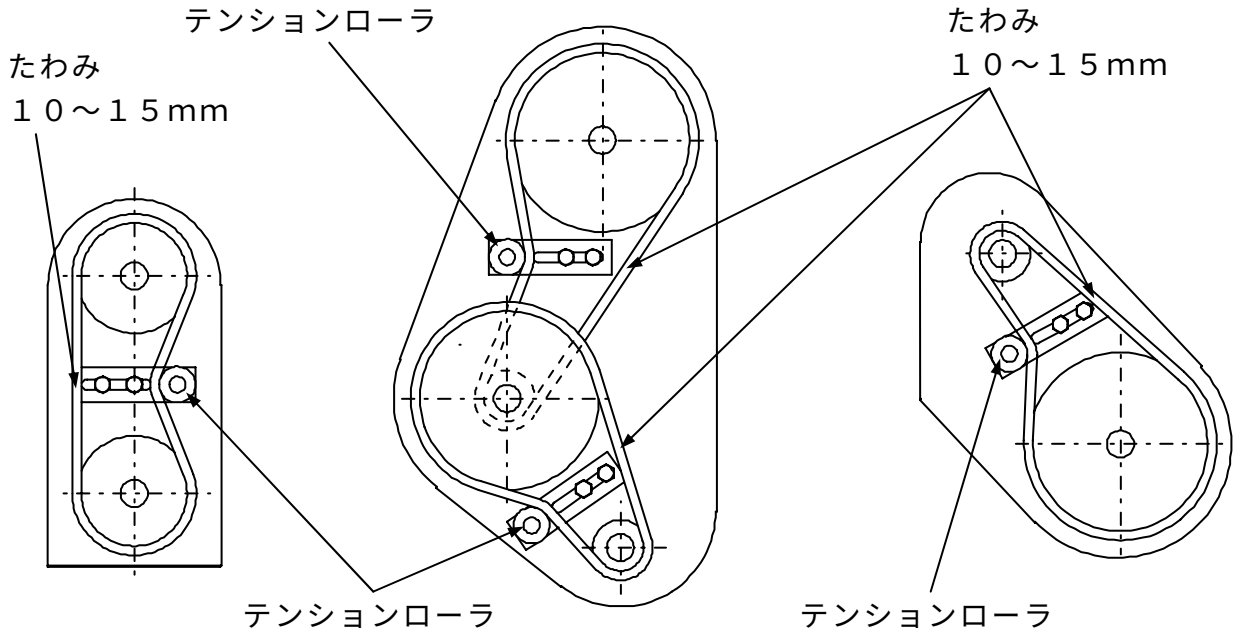
フロアコンベアチェーンの張りはテンションスプリングの長さで点検します。
基準値Ａは１２５mmです。
フロアコンベアチェーンはデタッチャブルチェーンですので、１リンク毎に交換できます。交換は次の要領で行います。

（１）アイドラ軸のテンションボルトをゆるめ、軸を後方へずらします。
（２）チェーンを下図のようにずらして交換します。
（３）テンションボルトを締め付け、チェーンを張ります。



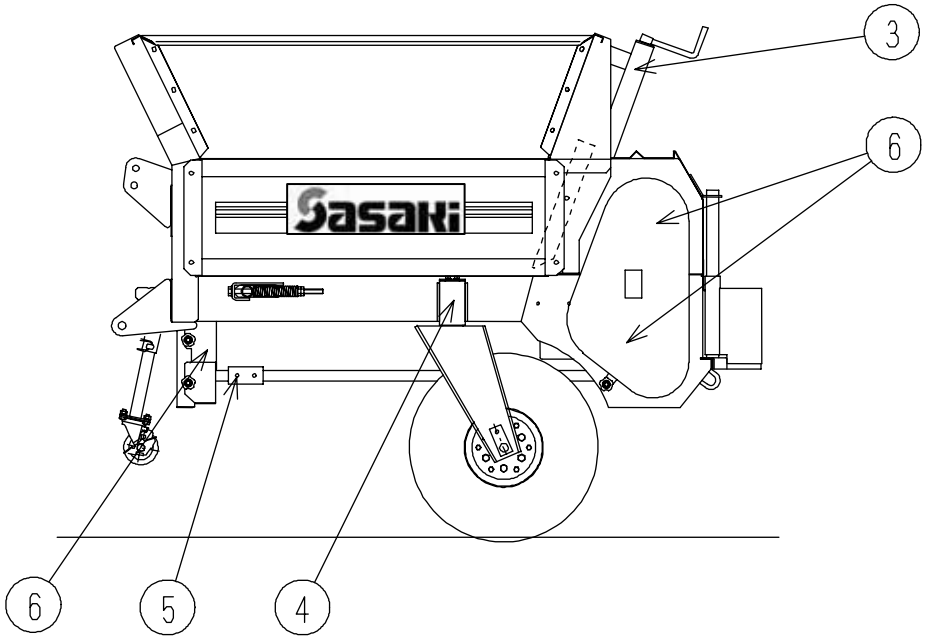

# ５．ローラチェーンの張り

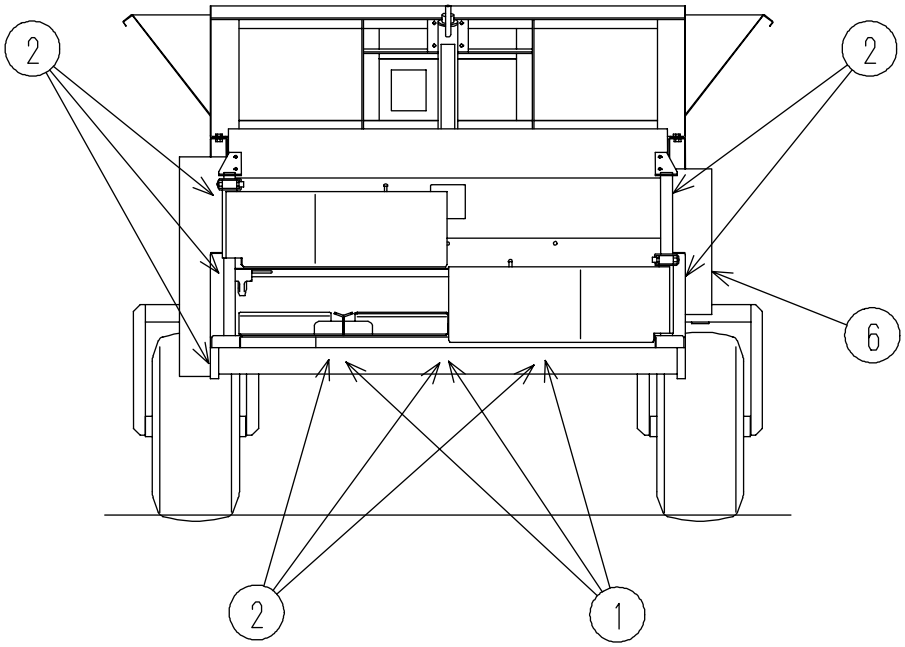
ローラチェーンの張りはテンションローラにより行います。
ローラチェーンの張りは図の通りです。



# ６．給油脂類

●グリースアップ
①ベベルギヤ
②ベアリングユニット
③シャッターねじ部
④キャスター軸受け
⑤カップリング
●注油
⑥ローラチェーン
⑦その他摺動部



# 7．点検整備基準

特に作業条件が悪い場合は、規定の時間より早めに点検整備をしてください。

○点　検　　△補　給　　□清　掃

| 作業内容 | | 時期 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 作業前毎 | 作業後毎 | 3ヶ月毎 | 6ヶ月毎 | 12ヶ月毎 | |
| 機体部 | ボルト、ナットのゆるみ | | | | | ○ | 新車時初回 5～10 時間 |
| | 機体の損傷 | ○ | | | | | |
| | タイヤ | ○ | | | | | |
| | ビータ、フロアコンベアの作動 | ○ | | | | | |
| | ローラチェーンの張り | | | ○ | | | |
| | コンベアチェーンの張り | | | | ○ | | |
| | 機体の洗浄 | | □ | | | | |
| 給油脂類 | ベベルギヤ | | | △ | | | |
| | ベアリングユニット | | | | △ | | |
| | シャッターねじ部 | | | | △ | | |
| | キャスター軸受け | | | | △ | | |
| | カップリング | | | | △ | | |
| | ローラチェーン | | | | △ | | |

# ■故障と対策

ここには、簡単な故障の原因とその対策方法を載せてあります。
もしも、機械の調子が悪いときは、この表を参考にしてください。
原因がわからない場合、対策が困難な場合は、早めにお買上げの販売店、サービス工場へご相談ください。

| 状　　態 | 原　　因 | 対　　策 | |
|---|---|---|---|
| シャーボルトが切れる | ＰＴＯの回転が速すぎる | ＰＴＯの回転を遅くする | シャーボルト交換 |
| | 石等異物の混入 | 異物を取り除く | |
| | 堆肥の積み過ぎ | 適正な積み込み量にする | |
| | ＰＴＯクラッチの接続が急激である | ＰＴＯクラッチの接続をゆっくり行う | |
| ビータが回らない（堆肥を散布しない） | ＰＴＯクラッチが切れている | ＰＴＯクラッチを入れる | |
| | ローラチェーンのゆるみ、はずれ | 正規にセットする | |
| | シャーボルトが切れている | 予備シャーボルトと交換する | |
| | ローラチェーンが切れている | ローラチェーンを交換する | |
| フロアコンベアチェーンがずれる(クロスバーが斜めになる) | フロアコンベアチェーンの張りが弱い | ずれを戻してからチェーンを張る | |

Sasaki

株式会社
ササキコーポレーション

ホームページ http://www.sasaki-corp.co.jp

| | | |
|---|---|---|
| 本社・工場 | 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259 | TEL 0176-22-3111 FAX 0176-22-8607 |
| 営業部 | 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259 | TEL 0176-22-0170 FAX 0176-25-3127 |
| 部品窓口 | 〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259 | TEL 0176-25-3170 FAX 0176-25-3171 |
| 北東北営業所 | 〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75 | TEL 0176-23-0354 FAX 0176-23-9655 |
| 仙台営業所 | 〒989-1631 宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11 | TEL 0224-58-7780 FAX 0224-58-7782 |
| 関東営業所 | 〒329-0201 栃木県小山市粟宮1241-9 | TEL 0285-45-8911 FAX 0285-45-8910 |
| 長岡営業所 | 〒954-0124 新潟県長岡市中之島字1982-13 | TEL 0258-66-0888 FAX 0258-66-0988 |
| 岡山営業所 | 〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野110-2 | TEL 086-274-9508 FAX 086-274-9510 |


ＳＭＳ－１０２０Ｒ取扱説明書（初版）　２０１２．７

開発技術部

# SMS－1020R 取扱説明書管理台帳

改 訂 履 歴

| 版 | 改訂年月日 | 改訂内容 | 承認 | 審査 | 作成 |
|---|---|---|---|---|---|
| 初版 | 2012. 07. 09 | 初版作成 | | | 大澤 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

Q3001－様式53A